

76枚の美術作品から都市の記憶が蘇る

～「武漢・印象 - 百年の古建物」画展が開幕～

江漢税関、曇華林(武昌区にある清代の趣を残す小道)、首義紅楼(武昌起義軍政府旧址である紅楼)などの歴史的建造物が武漢の画家達の手によって風景画として永遠に残す事になった。1月11日、「武漢・印象 百年の古建物」美術作品展が武漢美術館において開幕し、同時に「武漢・印象 百年の古建物の美術作品集」も発刊された。

「武漢・印象」は武漢市で年に一回開催される美術イベントであり、武漢市の重大な文化プロジェクトかつ文化ブランドでもある。「百年の古建物」は「武漢・印象」美術創作シリーズイベントの第2期目であり、国家文化部より重要な支援プロジェクトに指定されている。

このイベントは武漢市委員会宣伝部主催、武漢市文化連合会、武漢美術家協会、武漢画院及び武漢美術館の協力により、去年6月から進められたものである。冷軍氏、董継寧氏等28名の画家を特別に招へいし、76枚の芸術作品が創作された。人々と共に武漢市の歴史を見守ってきた武漢市の「百年の古建物」を様々な角度から芸術分野において記録し、武漢特有の歴史的建造物の美しさと人間の築いた文明の内面的な美しさを再現した。

本展覧会は2月11日まで武漢美術館において、無料で市民に公開される。

2011年1月13日付け 長江日報より

武漢華僑城が来年5月1日に開園 エコツーリズムモデルエリアを創り出す

観光客により多くの生態や文化的な雰囲気を楽しんでもらうために、東湖の湖畔で建設ラッシュの華僑城プロジェクトに、新たなプロジェクトを加えることになった。昨日、湖北省委員会書記李鴻忠と省長代理の王国生氏は華僑城グループ会社の任克雷総経理一行と会見し、任克雷氏は、「武漢華僑城プロジェクトに現代風の芸術センター、大型文化劇場と生態博物館の3施設を新たに増設し、『斬新的な生態旅行モデルエリア』と『現代サービス業集積エリア』を作り出し、来年5月1日に開園する見込みだ。」と話した。

プロジェクトの原計画の内容は、「パラダイス」テーマパーク、独立アクアパーク、エンジョイチャイルドランド、インターナショナルカルチャーエリア、開放式の都市型レジャーエリア、テーマホテルとテーマコミュニティなどであったが、当プロジェクトに生態と文化的な雰囲気を強化させるために、華僑城グループは原計画に、新たに3つの内容を加えることを決定した。内容は以下のとおりである。

現代芸術センターは開放式の生態芸術公園に位置し、華中地域において最も影響力のある現代芸術の中心地となる。

大型文化テーマ劇場は中国雑技文化を広く発展させ、国家文化影響力を高める役割を果たす。

大型生態博物館は湖エリアの湿地生態文化を展示する中国での初の例となる。

武漢華僑城プロジェクトは、東湖北岸に建設中で、敷地面積は約 3167 ムー(約 211ha)、深圳華僑城グループが、深圳、北京、成都、上海の後に、中国中部地域にもう一つの大型総合区域開発プロジェクトを建設する予定である。